資料No.5

平成29年5月9日
第1回市総合計画審議会資料
市民センター

遠野市と首都圏大手企業の協定により開校「ふれあうように学ぶ場」

遠野みらい創りカレッジ

富士ゼロックス㈱ × 遠野市

「遠野みらい創りカレッジ」とは、遠野市と富士ゼロックス株式会社が協働で行なう地域振興のための活動で、遠野はもとより全国共通の地域課題解決と地域創生へつながる新たな価値づくり・仕組みづくりを目指しています。

中学校再編により閉校となった中学校校舎（旧土淵中学校）を最小限の改修によって研修施設として活用し、さまざまな立場の人や知恵が集う「場」を創出。地域資源を活用し地域住民と企業・団体、大学、自治体などの連携を促すプログラムの企画運営や活動支援を行なっています。

設立の経緯

遠野市は、内陸と沿岸の中間地点にあり双方に通じる道路網が整備され、古くから交通の要衝として『遠野物語』に代表される独自の文化が形成されてきました。東日本大震災の発生時には甚大な被害のあった沿岸地域の後方支援拠点として役割を果たしてきましたが、市庁舎が全壊するなど自身もまた被災地であり、また震災により地域課題が加速化。少子化による中学校再編や空き校舎の活用など地域活性化のための取組が急務となっていました。

富士ゼロックス社では、地域と密着したCSR活動に力を入れており、震災から岩手県に拠点を置いた復興支援を展開する中で、より「顔の見える」復興支援と被災地だけでない地方が抱える課題へのアプローチを模索してきました。その中で沿岸部での後方支援に成果を挙げた遠野市に着目し、市に働きかけ、社員と遠野市地域住民との交流事業を行なってきました。

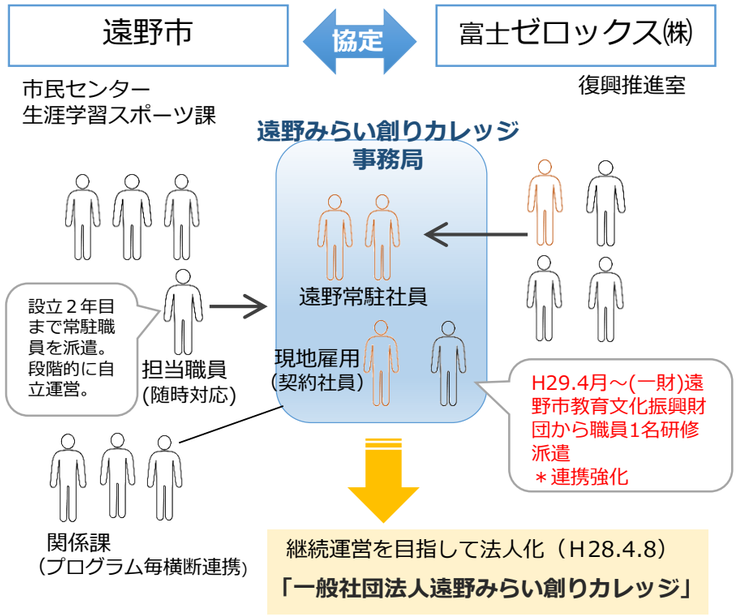
そこで両者はこの活動を深化させ、空き校舎を活用した地域課題解決やみらい創りのための人材育成･情報発信事業を展開することを地域住民との対話を重ねながら検討を進め、平成26年4月８日協定運営よる「遠野みらい創りカレッジ」の開校に至りました。

2012年
　11月　ゼロックス社員と地域住民による研修「**みらい創りキャンプ**※」開始
　　※以降冬・春・夏・秋・冬　　継続実施
2013年
　2月　遠野市「中学校再編成後における学校施設等活用事業案」公表
　4月　富士ゼロックス新入社員研修実施
　5月　閉校活用提案 ①[地域連携による学びの拠点づくり(みらい創りラボ)]
　7月　「遠野民俗学大学院構想による地域再生計画」採択
　8月　閉校活用提案 ②[地域連携による学びの拠点づくり(カレッジ)]
　11月　みらい創りカレッジ構築協同プロジェクト開始
2014年
　4月　遠野みらい創りカレッジ開校

運営体制

平成26年4月8日に遠野市（本田敏秋遠野市長）と富士ゼロックス株式会社（栗原博専務取締役(当時)、現代表取締役社長）両者によるカレッジ運営協定を締結、事業内容・経費負担・情報発信などに係る協力事項について確認した。

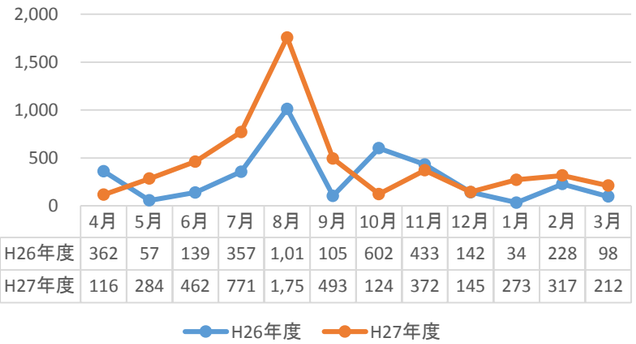
また3年目の平成28年4月8日には、より継続的な運営を目指し事務局を法人化。「一般社団法人 遠野みらい創りカレッジ」として自立運営を目指しています。



平成26年4月8日　開校記念式

【施設管理】
維持補修　：遠野市
施設管理　：カレッジ事務局
施設使用料：試行運営期間中は無料
※簡易宿泊（合宿等）は実費負担
※体育館・グラウンドは生涯学習施設として別途市が管理
※法人化以降プログラムコーディネート料を収入に事業実施

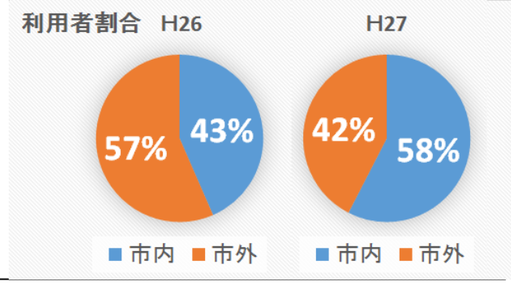
カレッジ利用者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H26年度	362	57	139	357	1,01	105	602	433	142	34	228	98
H27年度	116	284	462	771	1,75	493	124	372	145	273	317	212

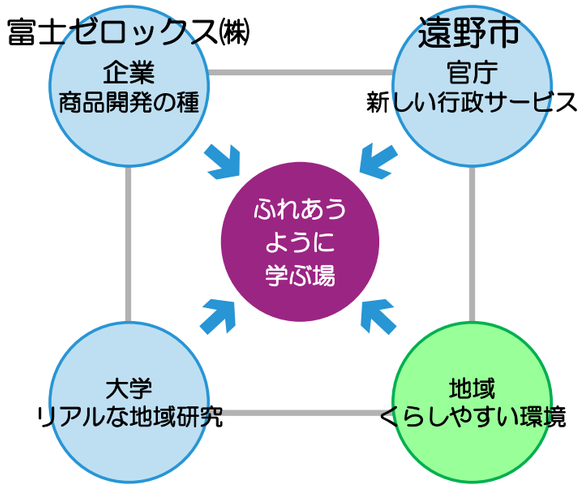
累計利用者数

平成26年度	3,569人
平成27年度	5,327人
平成28年度	5,049人



コンセプト

　みらい創りカレッジは、企業・大学・自治体など様々な立場の人が地域に入り連携することでそれぞれの課題を発見し、成長支援のため知恵を出し合える場「ふれあうように学ぶ場」として設立されました。



・地域コミュニティとの連携
・グローバル規模の産官学連携
・遠野で検証した課題解決の仕組みづくりを全国展開
・地域の知恵を世界に向けて発信

「日本のふるさと＝世界のふるさと」

ふれあうように学ぶ場
遠野みらい創りカレッジ

プログラム

　カレッジを基点として遠野市全体の地域資源を活かしたプログラムの構築・実践に取組んでいます。
　遠野の魅力を発信しながら、多主体の交流による研究・芸術・文化・産業などの分野における遠野の魅力発見と、まちづくりの潜在的な課題探索と解決手段の検討を目指します。
　社会人研修、小中高教育プログラム支援、大学フィールドワークなどのコーディネートや、地域人材・産業育成研修を中心とした各種プログラムの企画運営により、地域の未来をつくる人材育成を実践。地域動向に応じプログラム構成を更新しながら事業展開しています。

【 H27プログラム 】

プログラム領域		概要
交流	みらい創り活動	自然や文化・食や芸術等題材の連携促進活動
	みらい創りキャンプ	オープンテーマの対話会・ワークショップ
暮らし文化	中高一貫学習プログラム開発	地域を題材にした中・高生向け教育プログラム開発
	学際連携	大学生の地域貢献研究活動の実践・政策提言
	地域研究	医療・伝承・防災等地域が求めるテーマ検討
産業創造	地域創生	地域リーダ育成を主眼においた研修等の課題発掘・プロジェクト
	産業創造	協賛企業や地元企業とおこなうビジネスモデル検討

■高校教育プログラム開発

東京大学と海外有名大学留学生、遠野の将来を担う高校生による異文化交流による能力育成セミナー。学生はイノベーション人材育成のカリキュラムづくりの地域に入って実践を行ない、この過程に地域の高校生が参加することで国際コミュニケーション能力の育成に取組みました。

■大学生フィールドワーク

立教大学インターンシップ研修、専修大学リーダーシップ研修、中央大学、法政大学と連携。農家民泊体験を含め、ジャンルを限らずより深く地域に関わり、地域還元できる研究を目指すフィールドワークをコーディネートしました。

■中学生総合学習支援

総合的な学習の時間を活用した教育プログラム。対話会により生徒が将来の夢の発見し、深め、地域の未来を創るため地域から学び、地域に活動を発信するまでをサポートしています。生徒自らが企画実施した「遠野を元気にするプロジェクト」では地域産品を生かした商品開発や、地元商店街のキャラクター作り、ふるさとCMの制作などが実践されました。

■社会人･企業研修

首都圏企業の研修の受け入れでは、遠野の自然文化を生かし地域のステークホルダーと連携したカリキュラムを提供しているほか、地域企業の人材育成研修も実施。首都圏のビジネスマンや学識経験者を招き、地域企業の課題把握から、取組テーマ設定、推進計画立案というステップで助言を仰ぐプログラムを開発し、実践をおこなっています。

■後方支援研究

沿岸地域と内陸地域を結ぶ交通の要衝として、古くから人とモノを「つなぐ」役割を果たしてきた遠野市。東日本大震災の際には後方支援拠点として、支援団体や物資の集積基地として機能しました。自治体水平連携の構想をもって訓練を重ね、実践された活動、これを可能にした地域力を育んだ遠野スタイルのまちづくりを先進事例として、今後の災害に備える研究会を開催しています。

■地域交流

カレッジでの文化資本、スポーツ文化、固有文化等の成果を地域に発信するための地域交流事業を実施。地域との関係性の構築とあわせて、遠野の将来を担う子どもたちへの有益な機会を提供することを目的としたイベントを行ないました。

平成29年度 「遠野みらい創りカレッジ」プログラム 概要

平成２９年５月９日
第１回市総合計画審議会資料
市民センター

プログラム				カリキュラム概要
①交流	1	地域貢献・連携		自然や伝統文化・スポーツ等の交流促進 （田植え、地域対話会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、音楽交流、スポーツ祭、企業塾等）
	2	地域交流・研修など		カレッジ施設・フィールドを活用した活動　（
②暮らし文化	1	次世代人材育成	国際連携	i-club連携プログラム（東京大学）8月実施 参加対象：遠野高校、遠野緑峰高校、花巻北高校、東北各県高校、東北の大学、東京大学(学生及び留学生)
			中高一貫学習プログラム	中高生向け教育プログラム開発（みらい創り希望塾） （遠野高校総合学習「新しい『遠野物語』を創る」プロジェクトとの連携、東京大学i-clubとの連携、 一日市商店街等活性化中学生活動）
			ソフトウェア技術体験・指導	小中学生向けプログラミング学習検証 ※対象；土淵小学校4～6年生
	2	地域研究	地域リーダー育成	みらい創造プログラム/未来新聞　「みんなの未来共創プログラム 2017」
			防災・減災研究	災害時後方支援拠点研究 （友好都市及び防災協定締結都市との連携、第4回後方支援拠点研究会＠南足柄市）
			遠野の伝統文化再発見	民俗学/伝統産業再考と新研究　文献資料等の整理と利活用
③産業創造	1	地域創生	テレワーク推進	ﾃﾚﾜｰｸ含む、ｺﾜｰｷﾝｸﾞスペースのﾋﾞｼﾞﾈｽ利用促進 （企業への利用宣伝活動、東京大学i-clubとの連携、みんなの未来共創プログラム 2017との連携等）
			障害者視点のまち創り	介護・障害者施設環境改善研究（企業と連携した研究活動等）
	2	産業振興	遠野型エリアマネジメントの実践	市内全商店街の活性化 （法政大学×まち創り組織）
			カレッジ発遠野型産業創造の実践 ※拠点再整備	カレッジ施設の再利活用と市内施設と連携した産業振興支援の検討・実践 （実験栽培・カフェ/加工品開発・販売、土淵まつり開催）
				森林資源を利活用したまち創り （中央大学×市内木工関係企業）
			子育て支援プロジェクト	木工と印刷技術等の連携による新生児お祝い新商品開発
				親子の遊び場開発と提案

旧上郷中学校・遠野グローバルプラザ

平成29年5月9日
第1回市総合計画審議会資料
市民センター

目指す姿：「民間活力と郷土芸能を活かしたコミュニティー活動の推進」
本施設を拠点に、地域、活用団体、行政、関係団体等の総合力によって、地域内にある自然・歴史・文化・風土などの資源を活用した、持続可能な上郷地区の振興・活性化を図る。

旧上郷中学校
遠野市内の中学校再編により、
平成25年3月31日に閉校。
（岩手県遠野市上郷町板沢11-6-6）

H25.3.31 閉校
H26.6.7 旧上郷中学校利活用WS
H26.9.25 施設再生委員会の設置
H26.11.15 上郷のんびり広場OPEN

閉校から：検討委員会の設置

施設の用途を検討するべく、
行政・活用団体・地域住民による
施設再生委員会が設置される。
地域住民の声を元に、コミュニティスペース「上郷のんびり広場」が
設立された。

H27.8.1 遠野グローバルプラザOPEN
H27.11.13 地域おこし協力隊の配置
（旧上郷中学校利活用担当）
H28.8.1 空き教室の事務所化

現在：活用団体の増加・地域への開放

本施設利活用検討のために、市外より
地域おこし協力隊として1名を採用。
定期的なイベント実施の他、空き教室
を地域団体の事務所にし、恒常的な利
用者が増える((公社)青年海外協力協会、
NPO法人OVENSE等)。

- 遠野グローバルプラザ
- 郷土芸能伝承館
- スポーツカルチャー教室

これから：複合型地域活性化拠点へ

本施設活用の3本の柱として、以下の機能を整備していく。さらに、町内外の利用強化を進め、本施設を拠点としながら、地域に活性化の波及効果を生み出していく。

▸遠野グローバルプラザ
国際展や人材育成事業
((公社)青年海外協力協会)

▸郷土芸能伝承館
郷土芸能団体の資料展示
(遠野市)

▸スポーツ・カルチャー教室
スポーツ大会や指導者育成
（NPO法人OVENCE）

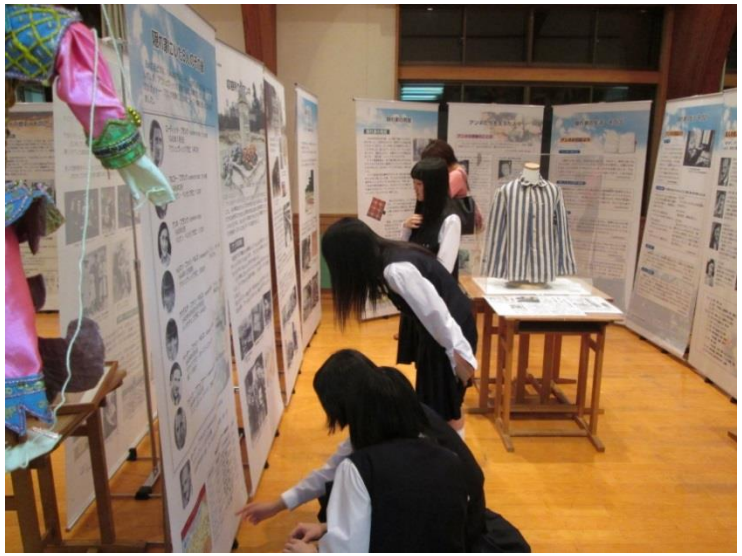
遠野グローバル・プラザ　概要

- オープン：2015年(H27)8月1日
- 場所：旧上郷中学校　2階スペース（教室×2＋廊下スペース）
- 運営：（公社）青年海外協力協会　遠野事務所
- 特徴：**空き校舎を利用した教育文化交流施設**

✓　国際協力、多文化理解を深める**企画展示**

- →約2か月サイクルにて入替（廊下スペース：約90㎡）
- ・岸田袈裟さんに関する常設展示
- ・国際緊急援助隊（JDR）展
- ・世界の発明展
- ・食料と農業展
- ・“もったいないばあさん”パネル展　等
- 世界各国の民族衣装や教科書を常設（教室スペース）

✓　青年海外協力隊関連、遠野市との姉妹都市（イタリア・サレルノ市）、交流都市（アメリカ・テネシー州チャタヌーガ市、ドイツ・シュタイナウ市）関連コーナーを常設

遠野グローバル・プラザ（展示）

遠野グローバル・プラザ（様子）